戦火のベイルートから

パレスチナ人民に支持と連帯を

日本赤軍

戦火のベイルートでPLO、パレスチナ人民と共にイスラエル侵略軍と闘い続けている日本赤軍から、本紙編集部あてに、緊急報告が送られてきた。その中で日本赤軍は、今回のイスラエルによるレバノン侵略に至る、アラブ・世界情勢を分析すると共に、PLOの抹殺をねらうイスラエル・ベギン政権と背後の米レーガン政権を厳しく糾弾し、PLOへの支持と連帯を強く呼びかけている。そして、日本をはじめとする世界各地での反核反戦運動で更に米レーガン政権を追いつめることが、パレスチナ人民への何よりの連帯であることも。以下に日本赤軍の報告を掲載する。なお、送られてきたものは全七章からなる長文のため、第六章「イスラエルにレバノン侵略をふみきらせた要因は何か」及び第七章「日本人民、同志、友人のみなさん」のみを掲載する。（御希望の方には全文コピーを実費でさしあげます。）

イスラエル国家の支配構造のヒエラルキーのもとに、パレスチナ問題を解決するというベギンの一貫した立場は、パレスチナ人を最下層に位置させ、ユダヤ人社会の労働力として以外の存在形態を認めることは出来ないという立場にたっています。それ故、パレスチナ人の自治問題は、パレスチナ人に、パレスチナ人を管理支配させ、それをシオニストが統合するための手段であって、領土問題であってはならないという考えにたっています。建国ではなく、「自治」問題だと考えています。イスラエルと外の関係、すなわち、アラブ社会との関係においては、現状のイスラエル建国を領土、国家的に認めさせ、そのことによって、中東における工業国として生産力を拡大し、遅迅アラブ諸国の資源、労働力の収奪と搾取、市場としての従属を展望しています。

こうした野心のもとにおいては全領土の解放を求め、イスラエルの存在を承認しないPLOは、妥協の余地のない解体対象以外の何ものでもないという考えにたっています。それ故、あらゆる機会、条件をつかってPLOの解体にむけた闘いを続ける以外には、ないと考えています。

こうした基本見解にたつベギン政権は第一に国内支配の矛盾解決、第二にキャデービットのいきづまりに暴力的解決策態を与えイスラエルの方針を既成事実化させるために、第三に国際情勢、米帝との関係において、第四にアラブ情勢の持つ、五六%が非宗教的民主的パレスチナを求め、一八%が共産主義を、一六%が社会主義を、一八%が混合経済を求め、資本主義を支持するものはたった三%であったと書かれています。被占領下のパレスチナ人に対し、シオニストの〝民政〟や〝村落同盟〟による〝支配の強化に対し、人民の闘いは拡大しつづけています。反対する市長や、新聞社への解雇や、解散は、反対を封じることが出来ず、逆にPLOを軸とする民族的結集を強めています。

又、「自治」交渉の会議場をエルサレムにする限り応じられないとするエジプト・ムラバクの姿勢は、アラブ世界にとって、保守派をまきこむ重要なポイントであり、米帝としては、自治交渉再開を軌道にのせ、ヨルダン、サウジをまきこむためには、ベギンのはねあがりが不満である訳です。米帝、イスラエル、エジプトのキャンプデービット路線にとって、パレスチナ問題を、どの様に扱うのかという問題が解決されない限り、パレスチナ人からPLOをひきはなすことは出来ず、その前後の矛盾に会議場問題があり、キャンプデービット（CD）路線の破産を招きかねません。

イスラエルは、自治交渉を有利に打開するために、シナイ返還で右翼の批判が増している現在、PLOを一掃することが死活問題となってきました。

第三に国際情勢、米帝との関連での問題です。レーガン、ヘイグの戦争政策が国際的緊張を高めて以降、ベギンの「賭け」

第一の国内矛盾は経済政策の破綻によって、五月一九日、クネセットにおいて労働党の批判が拡大し信任五八、不信任五七、棄権三でかろうじて不信任をしりぞけたのですが、現在のベギン政権の不安定な状況を示しています。労働党は、ベギンの軍事制圧方式を批判しつつ、ヨルダンその他のアラブ右派勢力との「平和」条約方針をもっており、米帝のイスラエル、アラブ統合支配により呼応した戦術展開の可能性をもっています。それ故、不信任も、直接には経済政策に関してですが、米帝を背景とした矛盾が、政策的には大きい位置をしめていました。労働党からの批判、経済再建、シナイ返還による右派の反発という内政危機に対し、軍事冒険によって、自己の連立内閣を持続しようと企てました。

第二に、キャデービットのいきづまりを打開しなければならないという問題の中心は、パレスチナ「自治」交渉の問題です。タイム誌の行った西岸、ガザ地区での世論調査によれば、独立したパレスチナ国家を求めるものが九八・二%、唯一PLO国家を運営するというのが八六%、パレスチナを指導するものとして、五〇%がアラブ人を支持し、五六%が非宗教的民主的パレスチナを求め